

公開シンポジウム

広島の実験復興を どうアフリカに活かすか？

How can we turn our experience of reconstruction in Hiroshima to African Countries?



～シエラレオネからの研修員を迎えて～

日時：平成 17 年 10 月 29 日(土) 午後 2:00～4:30 (開場 午後 1:30)

場所：広島市まちづくり市民交流プラザ 6 階 マルチメディアスタジオ

広島市中区袋町 6 番 36 号 Tel 082-545-3911
 広電市内電車「袋町」電停下車 徒歩 3 分
 駐車場はございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。

使用言語：日本語/英語(逐次通訳有)

定員：80 名(先着順)

参加費：無料

進行： 山田 伸二氏 NHK 解説主幹

シエラレオネからの JICA 研修員(中央および地方自治体の幹部行政官) 9 名
 報告「シエラレオネの現状と広島から学んだこと」

パネリスト：(五十音順・予定)

「シエラレオネ：平和強制・平和維持から平和定着へ」

伊勢崎 賢治氏 立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科 教授

「広島の実験復興を国際協力にどう活かすか？」

篠田 英朗氏 広島大学平和科学研究センター 助教授

「日本の NGO によるアフリカ難民支援・帰還民支援の現状」

福井 美穂氏 特定非営利活動法人 ピース・ウィンズ・ジャパン

「JICA の対アフリカ支援の現状」

山本 愛一郎 JICA アフリカ部 調査役

アフリカ西部のシエラレオネ共和国では、1991 年に反政府軍(RUF)が蜂起し、同国で産出されるダイヤモンドを財源に、反政府戦闘行為が断続的に勃発、約 10 年に亘り内戦が行われました。この間、日本からの二国間支援は途絶えましたが、今年より再開され、教育、農業等の支援が開始されようとしています。

独立行政法人国際協力機構(JICA)中国国際センターが広島県、(財)ひろしま国際センターと共同で実施する研修コース、「シエラレオネ平和復興のための国際協力セミナー」では、中央および地方自治体の幹部行政官 9 名が来日し、日本の ODA と日本の戦後復興について学びます。とりわけ広島では、平和復興について理解を深めるとともに、道路・水道・電気といったインフラ整備や、教育・医療保健・農業活動を視察し、シエラレオネの復興計画を作る上での参考とすることを目的としています。

この研修の一環として行われるシンポジウムでは、広島の実験がアフリカの復興支援に役立つのかを、シエラレオネを中心に広島の方々とともに考えていきます。

是非ご参加ください。



主催：

独立行政法人国際協力機構(JICA)中国国際センター 広島県 財団法人ひろしま国際センター

後援(申請中)：

広島市 広島大学 NHK 広島放送局 中国新聞社 国連訓練調査研究所アジア太平洋広島事務所

参加申込み・お問合せ：(財)ひろしま国際センター 研修部(担当：倉本)

〒739-0046 東広島市鏡山三丁目 3-1 ひろしま国際プラザ内

Tel: (082) 421-5900 Fax: (082) 421-5751 e-mail: hiccken2@hiroshima-ic.or.jp

返送先：(財) ひろしま国際センター 研修部 (担当：倉本) 行

Fax: (082) 421-5751 Tel: (082) 421-5900

※広島市内からご連絡の場合、市外局番082からお掛けください。

公開シンポジウム

広島の復興経験を どうアフリカに活かすか？

～シエラレオネからの研修員を迎えて～

参加申込書

日時：平成 17 年 10 月 29 日（土）午後 2:00～4:30

場所：広島市まちづくり市民交流プラザ

フリガナ		
氏名		
連絡先住所	〒	
電話	Fax	
e-mail		
職業		
所属		
このシンポジウムに関して興味あること		

この申込書に記載いただいた個人情報は、シンポジウムの出席者の把握およびシンポジウム開催に関する連絡先としての目的以外には使用しません。

この用紙を郵送もしくは Fax いただくか、上記項目を記載の上、e-mail でお申込みください。